

菊地映子さんに励ましのメッセージを

鈴木 牧夫

3月27日、丹野広子さん（仙台の常任委員）と、丹野さんの連れ合いの方の運転で亙理高校の避難所を訪れました。エイコセンセーは、民間保育園の保母・園長として長く勤めて、退職後も保育者養成に携わっていました。第2回保問研全国集会に参加して、仙台保問研を阿部和子さんと一緒に立ち上げた私たちの仲間です。

エイコセンセーの家は亙理町浜地区にあり、家は津波が押し寄せてきて一階部分は瓦礫が詰まって壊滅状態になってしまいました。津波が押し寄せるとき、センセーは、車で近くの荒浜保育所に寄って、保育者と一緒に子どもたちを車に乗せて誘導して、荒浜中学校に避難しました。中学校にも津波は押し寄せてきて車は流されて海水も引かず、中学校の屋上に孤立状態になってしまい、そのまま一晩過ごすことになります。次の日、自衛隊のヘリコプターで救出されて、その様子がテレビに映されて、消息を知るところになりました。その夜は、岩沼市民会館に避難して、子どもたち、保育士とも無事でした。4日目に、亙理高校の避難所に移って、避難生活を続けています。エイコセンセーはいつもの通り元気です。避難所に子どもたちの遊びコーナーを設定して、子どもたちを見守ったり、被災を記録しておかねばと、甥御さんを伴って写真を撮ったりして好奇心旺盛です。

とは言っても、齢80近い避難所生活は大変です。おにぎり一個と菓子袋が提供されるだけです。近くの知り合いの方、友人たちに支えられています。一つの体育館に800名が生活しています。「他の地域に比べたら、お医者さんもいるし、ここはまだ幸せよ」と語っていました。

25日に携帯に電話が通じた時には、「保問研（全国集会）どうするの？やるんでしょ！」が第一声でした。自分が困難に出会っても、子どもたちを救助しようとしたり電話の相手を気遣う心の優しさは、どこから来るのでしょうか。

私たちの仲間であるエイコセンセーに励ましのメッセージを、ぜひ、お寄せください。事務局を通して、エイコセンセーにお届けします。